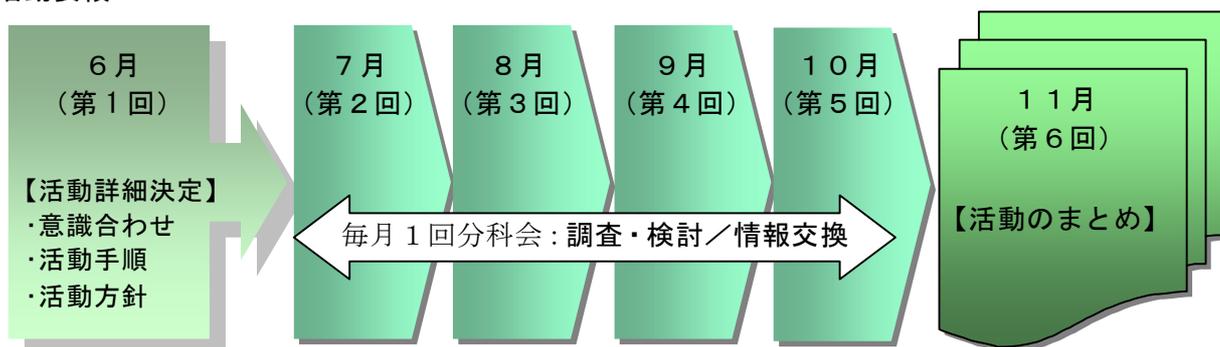


# LS研 2009年度 短期分科会 メンバー募集のご案内

## 1. 活動の目的

ITにかかわる「タイムリー」で「実践的」なテーマに対して、実際に業務を担当している方々が集い、情報共有や意見交換に重点を置いた調査・検討活動を半年間程度行い、自社での課題解決や情報共有を図ることを目指します。

## 2. 活動要領



### (1) 開催形式/活動方法

- 各月1回、全日、原則合計6回の会合を行います。
- 参加企業の事務所を持ち回りで開催させていただきます。
- 1テーマ6～12人、富士通のアドバイザー1名、事務局で活動いたします。
- 第1回の会合にて参加者皆様の合意で、「検討手順」や「まとめの内容」、第2回以降の「活動日」について決定します。
- 活動のまとめは、規定の形式は無く報告レポート等を作成いただきます。  
まとめの方法や成果の発表（LS研総合発表会等）については分科会内で決めてまいります。
- 会合以外の活動の補完として、インターネット上のLS研ProjectWEB(To Do List、ライブラリ、フォーラム)を活用します。
- LS研の精神の『Give & Takeの精神』と『積極的な自主運営』により、各参加者の取り組み内容や課題などの情報交換や、持ち回り開催をお願いいたします。

### (2) 対象者

- 参加条件を満たしている方
- テーマに関して実際に推進者として取り組まれている（担当予定）の方
- 毎回開催する分科会に継続して出席できる方
- 活動に必要なインターネット環境等の情報機器／ソフト、会場を用意できる方

## 3. 第1回開催について

本会合で、参加者の意識合せと検討手順および報告書の形式を決定しますので、必ずご出席下さいますようお願いいたします。

- ・日時：2009年6月30日（火） 9：30～17：30
- ・会場：富士通(株) 東京・汐留

以上

## L S 研 2 0 0 9 年 度 短 期 分 科 会 活 動 テ ー マ

◆各研究テーマの研究内容・参加者の参加条件などご確認の上、お申込みください。

<b>No. 1</b>	<b>情報セキュリティガバナンスのモニタリングと企業活動報告書の作成</b>	
<b>活動内容・活動方針 (目標・方向性)</b>	<p>全社的な内部統制やCSRの観点で、情報セキュリティガバナンスに基づいた管理の強化と社外への説明の重要性が高まっている。経営者、CISO (Chief Information Security Officer)、セキュリティ管理者の視点を踏まえた情報セキュリティの可視化やモニタリングの仕組み、またそれに基づいたセキュリティ報告書をどう作成すべきかを研究する。</p>	
<b>参加条件</b>	<b>対象者</b>	・企業の情報セキュリティ担当のマネージャーの方
	<b>前提スキル・経験</b>	・情報セキュリティマネジメントの経験が3年以上、かつシステム(ログ)管理の経験が3年以上ある方

<b>No. 2</b>	<b>コールセンターのマネジメントの方向性</b>	
<b>活動内容・活動方針 (目標・方向性)</b>	<p>コールセンターに求められる機能や位置付けは多様化してきている。コールセンターを運営する上でIT技術のみならず組織マネジメント、運用プロセスの定義などについて、国際スタンダード(HDC, COP2000等)の方向性を踏まえながら課題認識を行い、今後必要とされるマネジメントについて研究をする。</p>	
<b>参加条件</b>	<b>対象者</b>	・コールセンター運営部門のマネージャーの方 ・コールセンター運営/構築に関わる企画部門のマネージャーの方
	<b>前提スキル・経験</b>	・自社のコールセンターの運用課題を把握されている方

<b>No. 3</b>	<b>情報システム部門におけるパンデミック対策</b>	
<b>活動内容・活動方針 (目標・方向性)</b>	<p>企業におけるパンデミック(新型インフルエンザ)対策についての重要性の高まりが言われているが、従来の災害対策とは波及期間や予防対策などに根本的な違いがある。どういう影響が想定されるか分析を行い、情報システム部門としての対策と実際の措置方法について、ITの運用およびITサービス提供の観点で具体的な対応策について研究をする。</p>	
<b>参加条件</b>	<b>対象者</b>	・ユーザー企業の情報システム運用企画責任者の方(部長、課長) ・ユーザー企業の情報システム運用部門の責任者の方(部長、課長)
	<b>前提スキル・経験</b>	・自社情報システムのリスクマネジメントやBCPの企画、対策経験者

<b>No. 4</b>		<b>オフショア／ニアショア開発における課題と実践的施策</b>
<b>活動内容・活動方針 (目標・方向性)</b>		<p>オフショアを行うための仕組みはほぼ整備されつつあるが、異国間における環境の違いや人材、技術のリソース活用等、運用面では課題が多い。また、北海道や沖縄に開発を委託するニアショアの動きもある。どのようなプロジェクトをオフショア開発／ニアショア開発とするのが有効か、また、グローバルプロジェクトにおけるマネジメント方法（システム仕様書、設計・部品化、コミュニケーションの取り方等）について研究をする。</p>
<b>参加条件</b>	<b>対象者</b>	・情報システム部門のプロジェクトマネージャーの方
	<b>前提スキル・経験</b>	・オフショア／ニアショアプロジェクトに携わっている方

<b>No. 5</b>		<b>ユーザー企業が理解すべき工事進行基準の導入に伴う課題と実践的施策</b>
<b>活動内容・活動方針 (目標・方向性)</b>		<p>今年度より、受託ソフトウェア開発などを含むS I 契約には原則「工事進行基準」の適用が開始されることとなり、発注企業においてもその対応が話題になっている。この適用により、発注企業側が留意すべきポイント（収益の認識、開発総原価および、開発進捗度管理等）を業務視点で整理し、プロジェクト管理の高度化に向けた取り組みを研究する。</p>
<b>参加条件</b>	<b>対象者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム部門の課長、プロジェクトリーダーの方（発注企業）</li> <li>・経理／会計部門の課長、プロジェクトリーダーの方（発注企業）</li> </ul>
	<b>前提スキル・経験</b>	・S I プロジェクト推進経験者